

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ソルスタジオうさ				公表日	令和7年 3月 1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		今後は各支援内容の安全、円滑に実施出来るように、スペースの仕分けをさらに検討したい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	配置数が適切になるよう、シフトを組んでいる。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		空間管理（主に片付け）をより多くの利用者で進めていく仕組みを考えたい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	毎朝、環境整備、消毒等の時間を設けている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	個別の部屋や場所は無いが、一人でリラックス、クールダウン出来る様、環境づくりを行っている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	毎日ミーティングを行い、目標設定と振り返りを行なっている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	業務改善の為、気づきがあればその都度、ミーティングで共有し、対策している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	保護者の方から事業所評価アンケートにご協力いただき、業務改善に努めている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	事例研修等で支援内容はもちろん。支援に求められる視点を共有しながら日常業務における密な研修を心がけたい。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	保護者、全職員に周知し、支援計画に沿った支援を行っている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	アセスメントの際に保護者のニーズや課題等を把握し個別支援計画を作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1	日頃の職員会議を有効に活用し、客観的な評価のもと支援計画を作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	保護者、全職員に周知し、支援計画に沿った支援を行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	毎日個人記録の作成を行い、職員が日々の行動の状況を把握できるようになっている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	放課後等デイサービスガイドラインの「4複数組み合わせ、更に保護者、利用児童のニーズを踏まえうえて、具体的な支援内容を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	「食育」「知育」「体育」の三つのチームで活動プログラムを考えている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		「食育」「知育」「体育」の三つの観点から、利用児が興味・関心・特性に配慮しながら、より適切な支援を計画的、継続的、発展	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	1	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動が行えるよう支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		業務が終わった職員が互いにその日の出来事を共有しあう。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	日常的に気付いた点を随時共有できている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		利用児の観察を行い、記録することで、支援の検証・改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		個々の興味関心を十分に尊重出来ているかを見直し、更なる支援内容の充実を目指している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	6		放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6			支援内容の工夫を図り、より多くの選択肢の中から自己決定できるように促したい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		最も適した職員が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		障害福祉、教育等の関係機関と連携し、連携して支援を行なえるよう、情報交換を行なっている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		送迎時の対応やトラブル等、電話や送迎時に情報交をしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		在籍していた園や関係機関との連携をとり、情報共有している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		在籍する園や関係機関との連携をとり、情報共有している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		専門機関との連携は今後も継続していきたい。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6			現在は一緒に活動する機会が無い為、放課後等児童クラブや児童館等、活動に取り入れることが出来る様、考えていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1	参加していない。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		利用日にはその日のうちに、利用時の動きや様子を連絡し、共通理解に務めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2	支援後の状況報告等、日常的に保護者とは情報交換が行いやすい関係づくりが出来ている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		新規利用される方に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		モニタリングの際にこどもや家族の意向を確認する機会を設け、個別支援計画を作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		契約時に説明し、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		施設外の困りごとについても、相談を頂くことが多く、相互の信頼感に基づく支援ができている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	1		現在父母の会を設けていないが、保護者から意見があれば交流の機会を設ける事も考えていきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		LINEによる迅速かつ適切な対応が来ている。施設に足を運び、じっくりと相談される保護者も多い。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		instagramを活用し、活動概要や行事予定を子どもや保護者に対して発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		書類は鍵付き書庫で保管し、破棄する場合はシュレッダーにかけている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		場合によっては視覚化して意思の疎通を図っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1	地域住民が参加できるイベントは実施していない。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			発生を想定した訓練は利用者のより深い理解を得るために、視聴覚教材などを活用することも考えたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		BCPを策定し、定期的に避難訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		契約時に保護者に子どもの状況をお聞きし、事前に確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		該当児童なし。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			災害・水害等の万一の安全管理はもちろん、日常的な安全管理もその都度情報共有し、必要な内容はマニュアル化した。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		契約時に説明し、保護者へ周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットは再発防止、想定されるヒヤリを予防するため、事例研修を検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		毎月、虐待防止チェックリストを配付している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		了承を得たうえで契約時に署名していただいている。その旨を運営委規定に記載している。		